

# 京都工芸繊維大学 教授着任講演会



\*新たに教授に着任した教員が、自身の研究内容及びビジョンを紹介します\*

日 時 : 令和5年 10月2日(月) 13:30~ (13:00開場)

10月3日(火) 13:30~ (13:00開場)

各講演会終了後、交流会(1時間※対面のみ)開催

実施方法 : <対面> 京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス)  
60周年記念館(両日とも)

<オンライン> Webexを使用したオンラインライブ配信および  
オンデマンド動画配信

オンラインライブ配信・オンデマンド動画の視聴方法は、希望者に別途お知らせします。ただし、参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等をご遠慮ください。

(当日の音声、スライドの著作権は発表者に帰属します。)

内容・スケジュール : 2ページ目をご覧ください。

対 象 : 本学学生・本学教職員・産学連携協力会会員企業・  
京都クオリアフォーラム会員企業

申込方法 : 下記URLよりお申し込みください。

| 参加申込専用フォーム |

<https://www.kit.ac.jp/entry/view/index.php?id=302938>

申込締切 9月15日(金)



## 会場へのアクセス

京都市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅下車、  
「出口1」より徒歩8分



問 合 先 : 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地  
京都工芸繊維大学 研究推進・産学連携課研究戦略係  
TEL:075-724-7209 FAX:075-724-7030  
E-mail:ken-senryaku@jim.kit.ac.jp

講演会詳細は以下のホームページにも掲載しています。

京都工芸繊維大学 研究推進・産学連携課HP  
<https://research.web.kit.ac.jp/inauguration/>



主催: 京都工芸繊維大学 研究戦略推進委員会

# 京都工芸繊維大学 教授着任講演会

10月2日(月)

## ①応用生物学系 野村 真 教授 (13:35~14:10)

### 「哺乳類脳の発生・進化・疾患の病態解明を目指して」

ヒトを含む哺乳類の脳皮質は進化の過程で著しく肥大化し、様々な高次脳機能の最上位中枢として機能している。本講演では、比較発生学および分子発生学的手法による脳皮質の発生・進化メカニズムに関する研究成果を紹介する。さらに、ゲノム情報に基づくヒト表現型の進化と疾患の病態解明に向けたアプローチについて講演する。



## ②分子化学系 吉田 裕美 教授 (14:15~14:50)

### 「イオンの電気化学とリポソーム製剤作製法への展開」

脂質二分子膜にかこまれたリポソームは、薬物送達のカプセルとして用いられている。本講演では、リポソームの外部水溶液のイオン組成をかえるだけで、ターゲットのイオン性薬物をリポソーム内部に自己濃縮させる方法を紹介する。また、この方法を設計する上で重要な、イオンの電気化学的概念についても述べる。



## ③分子化学系 黒田 浩一 教授 (14:55~15:30)

### 「スマートセル創成に向けた生命現象の理解と新規バイオ技術の開発」

生物は長い進化の過程で様々な有用機能を発達させてきた。その分子機構を理解し、新たなバイオ技術を開発・応用することで生物の潜在能力を引き出すことが可能となる。本講演では独自の基礎的知見をベースとした細胞の「ストレス耐性強化」、細胞表層に新たな機能を付与する「細胞表層工学」について概説し、その応用例を紹介する。



交流会 (15:45~16:45)

10月3日(火)



## ①機械工学系 北川 石英 教授 (13:35~14:10)

### 「分散体を利用した熱流動制御技術の開発」

機械・化学・船舶・医療など幅広い分野において、粒子や気泡などの分散体を積極的に利用した画期的な新技術が生まれている。本講演では、マイクロ流体から高速流体までの熱流動現象に対する分散体利用型制御技術を紹介する。



## ②情報工学・人間科学系 馬 強 教授 (14:15~14:50)

### 「情報学で生活を豊かに」

情報と社会のインタラクションについて研究開発を行っており、本講演では、観光、金融・投資とWeb・SNSなどを対象とした、データマイニングと情報検索・推薦の基盤技術およびそれをういた社会情報システムに関する研究について紹介する。



## ③情報工学・人間科学系 山本 高至 教授 (14:55~15:30)

### 「無線制御信号からのプライバシー漏洩」

高速無線通信においては、送受信局の位置や人体などの位置・呼吸などにより変化する伝搬路情報が制御信号としてフィードバックされており、この制御信号からこれらの位置やバイタル情報が推定できる一方、プライバシーリスクとなりうることを紹介する。



## ④基盤科学系 三好 智子 教授 (15:35~16:10)

### 「自閉スペクトラム圏の学生への支援：修学・就労、メンタルヘルス」

自閉スペクトラム圏の学生は、能力のメリハリが大きく、優れた能力をもっている場合でも、その特性と関連して学業不振や適応上の困難、メンタルヘルスの問題等が生じることも少なくない。また、卒業後の進路も大きな課題である。本講演では、自閉スペクトラム圏の学生への修学から就労までの支援とその課題について述べる。

交流会 (16:25~17:25)